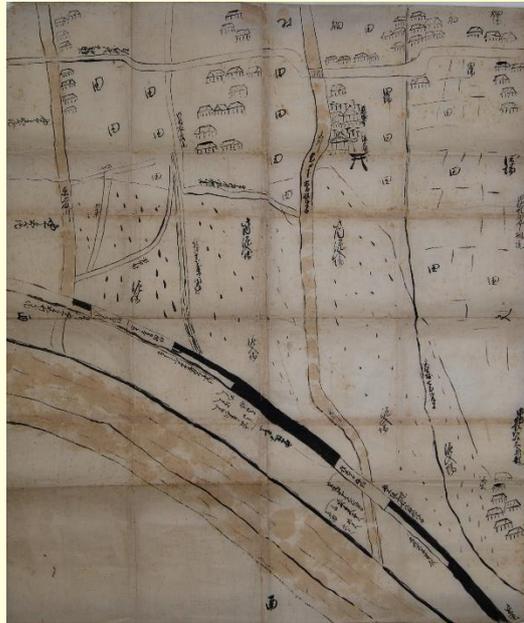




240年前の江戸時代天明3年(1783)に発生した浅間山大噴火は、吾妻川から利根川を流れ下った天明泥流による大災害となりました。天明泥流の危機、そして二次災害が迫る中、伊勢崎藩はどう対処したのか、企画展では、絵図や古文書などから紹介します。本号では伊勢崎に押し寄せた天明泥流はどのような被害があったのか、企画展展示資料を紹介します。



東上之宮村泥入絵図 個人蔵

泥流により大きな被害を受けた前橋藩領東上之宮村(伊勢崎市東上之宮町)は、被害から3年後の天明6年(1786)に田・畑・屋敷の泥流被害状況を前橋藩に報告するため、「小前御書上帳」と「泥入絵図」を作成しています。史料によると、利根川に面した肥沃な水田が広がる東上之宮村は、全水田の42%にも及ぶ30.4畝、屋敷や畑19.3畝、最も規模の大きい排水路の宮川は1.1kmにわたり泥流によって埋もれた「泥入」と記されています。史料が伝える東上之宮村の泥流被害の一部は、村南東端の宮柴前遺跡Ⅱ区の発掘調査で確認された泥流に飲み込まれた田畑と考えられます。



小前御書上帳 個人蔵

天明泥流により大きな被害を受けた前橋藩領東上之宮村(伊勢崎市東上之宮町)が作成した泥流被害報告。泥流被害を受けた田、畑、屋敷の状況を所有者ごとに「泥入」か被害のなかった「無難」にまとめています。

天明泥流で埋もれた田畑の発掘調査

利根川に面した清掃リサイクルセンター21(柴町・東上之宮町)の建設に伴う宮柴前遺跡の発掘調査では、深さ1~2mにも及ぶ天明泥流に飲み込まれた当時のままの水田や畑が確認されました。発掘調査された範囲は、前橋藩領東上之宮村(伊勢崎市東上之宮町)と、伊勢崎藩領小泉村(柴町)にあたり、8月2日より激しくなった浅間山噴火の降灰は、田や畑に厚く積もり、それにもまして泥流被害の大きかった利根川沿岸のこの地域は、8月5日になすすべなく家、水田、畑など日常を天明泥流に奪われることとなってしまいました。



6/16(金) ▶
8/27(日)

企画展

伊勢崎藩を救え!

天明3年浅間山大噴火

展示資料紹介

浅間山大噴火から二四〇年・「天明三年」を語り継ぐ

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

休館日：月曜日(月曜日が祝日は翌日)・年末年始・臨時休館日 開館時間：午前9時~午後5時(入館は4時30分)

お問い合わせ 群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98

電話 0270-63-0030

FAX0270-63-0087

E-mail: siryokan@city.isesaki.lg.jp

入館無料